

月夜野ホタルの里 ガイドマップ

●交通：＜お車＞関越自動車道 月夜野IC 下車8分
 ＜電車＞上越新幹線 上毛高原駅 徒歩1分

●お問い合わせ：みなかみ町観光協会 TEL0278-62-0401 FAX0278-62-0402 URL <http://www.enjoy-minakami.jp>
 月夜野ホタルを守る会（みなかみ町役場エコカ推進課内）TEL0278-25-5032 FAX0278-62-2291
 みなかみ町ホームページ <http://www.town.minakami.gunma.jp>

●注意事項：ホタルは、気温が20～25度で雨上がりの湿度が高く、蒸し暑い夜の8時～9時頃に良く飛びます。日によって多少は違いますが、9時を過ぎると休んでしまいう極端に数が少なくなります。ホタルを観賞するときは懐中電灯などの光を出すものの使用を禁止しています。ホタルは強い光に当たると視神経がおかされ死んでしまいます。マナーを守ってホタル観賞を楽しみましょう。

ホタルの生態

私たちが一般に“蛍”と呼んでいるのは「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」ですが、ホタルの種類は世界中に2900種、日本には44種類がいると言われています。そのほとんどは一生を森や林などの陸上で過ごし、その中でも成虫になって発光するものは日本では21種類だけです。“蛍”は幼虫時代を水中で過ごし、地中でサナギとなり、成虫になると発光しながら飛翔するという一生をおくりませんが、このように変態を行うごとに生活環境を変えていく生態は世界的にも珍しく、また、幼虫はきれいな水流にしか生きられないことからホタルは「自然環境のパロメーター」とも言われています。

みなかみ町では、ゲンジボタル・ヘイケボタル・クロマドボタルが確認されています。

ゲンジボタルは、水辺のコケに産卵し、幼虫は里山の小川や溪流で巻き貝の一種であるカワニナを餌に成長します。四月下旬の雨の降った夜間に発光しながら一斉に上陸をはじめ土の中でサナギになり、6月中旬から羽化した成虫は夜露などの水分をとるだけでエサは食べず一週間の短い寿命を終えます。ホタルの発光はオスとメスが会うためのコミュニケーションであり、オス同士は同じ発光パターンを繰り返しながら飛翔し水辺の草に止まって発光しているメスを探し回ります。最盛期などに見られる、一匹のメスに数匹のオスが群がったり、オス同士が発光しながら空中で乱舞し集まったりする様子は「蛍玉」や「蛍合戦」と呼ばれています。

みなかみ町のゲンジボタルは、ピカー・ピカーと約4秒間隔で光ります。これは東日本のホタルの代表的な光り方です。

ホタル保護地

休耕田を町で借受けてホタル保護のために整備しています。

7月中旬、ゲンジボタルの乱舞が終息する頃になるとヘイケボタルが発生し、クリスマスのイルミネーションのようなチカチカとした光りかたに変わります。

4月上旬、保護地の一角には水芭蕉が咲きます。



この地区は、平成元年度に環境省の「ふるさといきもの里100選」に選ばれたことをきっかけとして、「ホタルを守る会」を中心にホタル保護の気運が高まり生息環境が守られてきています。

観賞コースは約2km。30分程度で廻ることができ、南側と北側の温度差で発生ピークがずれることから約1ヶ月という長期間ホタル観賞が楽しめます。

6月下旬のゲンジボタルのピークが過ぎる頃、ヘイケボタルも飛び始めます。この地域は、ゲンジとヘイケボタルが同時期に発生する全国でもまれなところで、ゲンジボタルは水路側（沢）、ヘイケボタルは水田の土手側というようにはっきりと棲み分けをしている様子が観察できます。

ヘイケボタルは、ゲンジボタルよりもやや小型のホタルで、源氏と平家になみへいけと名付けられています。幼虫時代は主に水田でタニシやモノアラガイなどの巻貝を食べて生活し、畦道などの土中でサナギとなり成虫は6月下旬～8月にかけて発生します。発光はゲンジボタルより弱く、チカチカと随分早いタイミングで発光しながら水田を飛翔します。

ピカー、ピカーと強い光を出すゲンジボタルに比べ地味な存在のヘイケボタルは、ここ数年かなり減少し心配されています。自然界のホタル全体の数が減っている中で、小川や溪流に棲むゲンジボタルは自然環境への関心の高まりと共に、保護地域の中では数を維持していますが、私有地である水田をすみにしているヘイケボタルは生息環境の維持を農家個人に頼っているのが現状です。農業の高効率化を追求し、蓄積性の強い農業を使用した水田には生物が棲めないのと同様、もちろんヘイケボタルも生きられません。ホタルの棲みやすい環境を守ることは、人間にとっても良いこととなります。

蛍月亭・傍生の碑

平安の昔、京の歌人・源順が東国巡行の途中、当地を訪れたとき、おりしも東の三峯山より昇る月を見て「おお、よき月よの一」と深く感銘し歌を詠んだという伝説があります。これが月夜野の地名の起こりと言われています。

蛍月亭から見る景色は、屏風絵のようで中秋の名月を観賞するのに格好のスポットです。

蛍月亭の傍らに建てられた供養碑「傍生の碑」はカワニナをはじめ多くの生き物への感謝と尊さを表し、すべての水棲生物を供養したもので、全国にただ一つの供養碑です。



トイレ ● 観賞コース ※観賞期間中の夜間、車の乗り入れは出来ません。 ● 道標 ● ゲンジホタル ● ヘイケボタル



水路はコンクリートを使わず、町内の工事で出た転石を利用した「生き物に優しい」石積みです。



＜駐車場＞
 町有駐車場・上組公民館・上毛高原駅前（2時間まで）・矢瀨公園が無料で利用できます。その他民間の有料駐車場もあります。迷惑な路上駐車はやめましょう。



ルートマップ

月夜野ホタルの里



ほくは、「ホタルぼーやのつきー」です。



嶽林寺

曹洞宗のお寺で500年の長い歴史があります。



蛍月亭

ホタルを守る会 詰所



蛍月亭・傍生の碑



南側の古城沢は6月中旬から7月上旬が見頃です。

「月夜野ホタルの里」ホタル観賞ガイド（資料編）



みなかみ町・月夜野ホタルを守る会

ホタルはカブトムシと同じ甲虫の仲間です。ゲンジボタルとヘイケボタルの特徴を比較してみましょう。

区分	体の特徴	光る部分の特徴	とび方・光方の特徴	時期	主なエサ	産卵数	すむところ	ホタルの光るしくみ	ホタルが光るわけ
ゲンジボタル		おす めす 胸の両側に十字型のもよう 体長 10~20mm	ピカ ~~~~~ ピカ	6月中旬 ~ 7月中旬	カワニナ 殻高30mm	約 300~ 500個 程度	清流地	ホタルの光るしくみ からだの中で「ルシフェリン」と「ルシフェラーゼ」というものと酸素をあわせて、光を出します。たいへんじょうずくに光らせるのでつくありません。 	ホタルが光るのは、暗い中でオスとメスがお話しをしているのです。
ヘイケボタル		おす めす 胸の両側に太くて黒いすじ 体長 7~10mm	チカ・チカ・チカ	6月下旬 ~ 7月下旬	モノアラカイ タニシ 殻高25mm	約 100~ 150個 程度	水田・湿地	光を出すちがい ホタル ホタル 0 50 100% 光 95% ちか カイコウ 0 50 100% 光 30% 55% ちか	みなかみ町でみられる他のホタル ヒメホタル 体長 6mm クロマドボタル 体長 10mm



カワニナ養殖施設（竹改戸地区）
カワニナ専用の飼育施設です。ここではホタル・カワニナの生態・自然環境をテーマに「ホタル教室」なども実施しています。

「ホタルの里」の飛翔風景

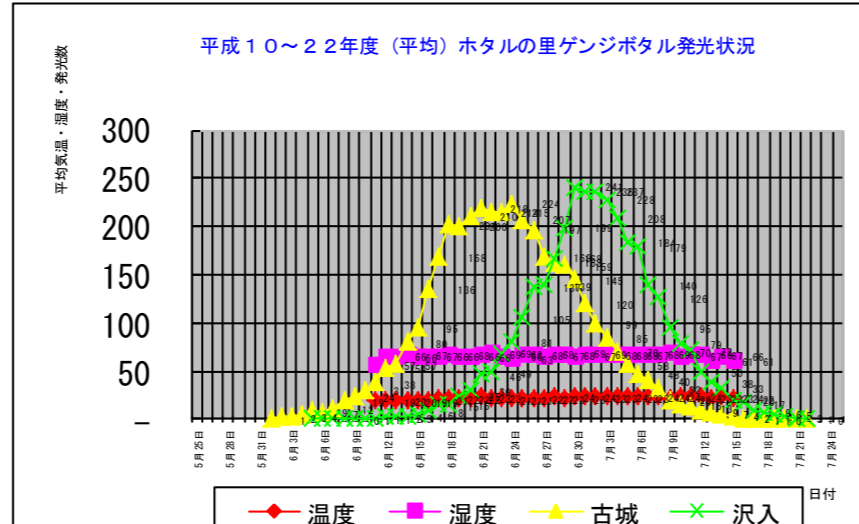


ホタルと共生するってなに？ ゲンジ・ヘイケボタルは人里に棲む昆虫です。小川の管理（草刈）や稲作は、昔からホタルの棲みやすい環境を守ってきたことになります。

月夜野ホタルの里は、「みなかみ町自然環境及び生物多様性を守り育てるための昆虫等の保護を推進する条例」の指定地域です。

「ホタルの里」の草刈・水路の清掃時期
ホタルの生態に合った適期に行うことが大切です。（ホタルを減らす原因になります。）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幼虫				上陸	さなぎ	成虫	ふ化	幼虫			
清掃適期				最小限の清掃				清掃適期			



ゲンジボタルのえさ「カワニナ」

ゲンジボタルは、水中で生活する約9ヶ月間カワニナを70~100個食べて大きくなります。また、オタマジャクシの死骸を食べる幼虫が当町下牧地区で発見され、条件により他のエサも食べることがわかってきました。ホタルは消化液を吹きかけ、肉片を体外で消化させ吸収するという「体外消化」という珍しい食べ方をします。

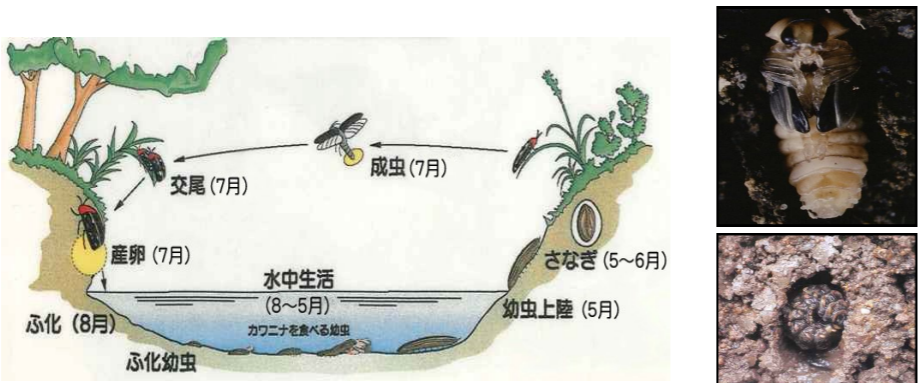


カワニナは、水のきれいな河川や湖沼の砂礫底に好んで生息している巻き貝です。水温に対する適応性は広く、普通の河川では0~27度くらいの所に生息可能で、一番適した温度は14~20度とされています。エサは、自然状態では水草や石の表面に発生した水苔や川底に砂泥に含まれる藻類などを食べていますが、それらが十分でないときは水中に沈んだ落ち葉や木の実、草などの各有機物もよく食べています。時には、小動物の死骸なども食べることがあります。人為的にキャベツ、キュウリ、スイカ・メロンの皮などを与えるとよく食べ繁殖します。

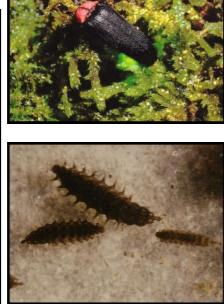
ゲンジボタルの一生

成虫
6月中旬~7月上旬頃、ホタルは羽化して3日くらいすると地上に出てきます。メスは18mm前後、オスは15mmくらいの大きさです。成虫は水を飲む他は何も食べません。平均寿命は一週間くらいです。

交尾
光によってうまくコミュニケーションがとれると結婚します。交尾が終わると早いものでは翌日から産卵を始めます。



産卵
一匹のメスは大きさ0.5mmほどの卵を500個ほど産みます。成虫になれるのは、1~2%です。



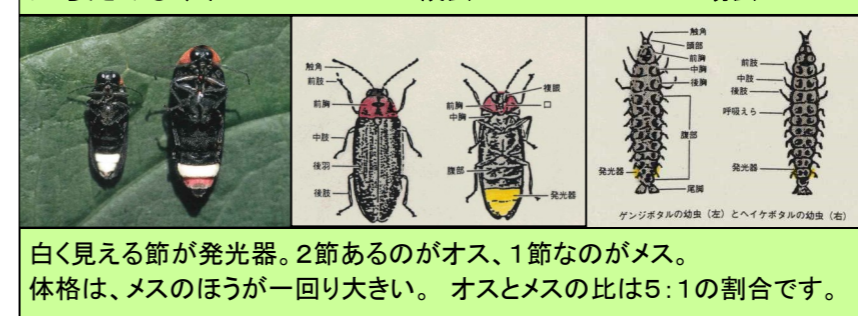
幼虫
幼虫は1.5mmくらいです。カワニナという巻き貝を食べ6回脱皮し25~30mm位になります。



さなぎ
土の中にもぐった幼虫は、土まゆを作ってサナギになります。さなぎは30日~40日くらいで羽化します。

上陸
4月下旬から5月上旬の雨の夜に上陸します。川沿いの土手の柔らかい地面にもぐり込みます。

からだのしくみ



陸生のホタル

幼虫のときも陸上で生活し、ウスカワマイマイやキセル貝などを食べています。

ヒメボタル 体長6~9mm
国内のホタルとしては最小で、ゲンジやヘイケとは反対にオスのほうがメスより大きくなります。スマートで眼は半球状が大きく、くぼんでいますがメスは眼がやや小さく下翅が退化しています。一生を陸で過ごし山中で飛ぶので、あまり見ることができません。

クロマドボタルの成虫と幼虫

クロマドボタル 体長10mm
雑木林や田んぼの土手などに生息し、生息場所は広く、ゲンジ・ヘイケなどとくらべると比較的注目されませんが身近な存在のホタルです。幼虫は、6月から秋頃まで発光していることから、「秋螢」「土螢」「うじボタル」などとも呼ばれています。

ホタル観賞と注意事項

- ホタルを観賞するときは満月の夜はさけましょう。明るくてあまり見られません。気温が20~25度で、雨上がりの湿度が高く、蒸し暑い夜に良く飛びます。
- ホタルをよく観賞できる時刻は、日によって多少違いますが、夜の8時から9時頃までです。9時を過ぎると休んでしまい極端に数が少なくなります。
- ホタルを観賞するとき懐中電灯は使用しないでください。とくに最近の強力なライトの光を当てると、ホタルは視神経をおかされ死んでしまいます。
- カメラのフラッシュも同じです。フラッシュライトを使用してもホタルを撮影することは出来ません。特殊な技術が必要です。
- ホタルを観賞するときは、さわがず静かに観賞しましょう。ホタルが近づいて来ることがあります。
- 迷惑となる路上駐車はやめましょう。駐車場は、町有駐車場・上組公民館・上毛高原駅前(2時間まで)・矢瀬公園が無料で利用できます。その他民間の有料駐車場もあります。